

様式第3号

会 議 録

会 議 名 (審 議 会 等 名)		平成30年度 第6回 川西市社会教育委員の会	
事 務 局 (担 当 課)		教育推進部 社会教育課 (内線 3422)	
開 催 日 時		平成31年3月12日(火) 10時00分～12時00分	
開 催 場 所		川西市役所 202会議室	
出 席 者	委 員	野崎議長、住友副議長、田中委員、米田委員、細見委員、 川口委員、塩谷委員、玉邑委員、黒山委員、丸山委員 計10名	
	そ の 他		
	事 務 局	株本副部長、大屋敷社会教育課長、田中社会教育課主幹、 藤井川西公民館長、村山中央図書館長、山中社会教育課主事	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> ・不可・一部不可	傍聴者数 0名
傍聴不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会 議 次 第		1. 開会 教育推進部副部長あいさつ 2. 前回の会議録の承認 3. 報告事項 (1) 阪神北地区社会教育委員協議会第4回理事会 (2) 各協議会等の会議報告について (3) その他 4. 議題 (1)平成30年度年間研究テーマのまとめについて 「公民館の役割について ～いま、何が求められているのか～」 5. その他	
会議結果		別紙のとおり	

審 議 経 過

NO.1

議長	<p>本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。ただいまから、平成30年度 第6回川西市社会教育委員の会を開会いたします。はじめに、本日の委員の出欠についてです。本日は全員出席です。それでは開会にあたり教育委員会からあいさつをお願いします。</p>
教育推進部(学校教育担当) 副部長	(挨 拶)
議長	<p>つぎは2の前の会議録の承認についてです。事務局において調製し、その写しをお手元に配布しております。事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	(説 明)
議長	<p>ありがとうございました。今のご説明につきまして何かご質問ございませんでしょうか。特に、質問はないようなので、前回の会議録をご承認いただいたものといたします。次に、3の報告事項についてです。まず、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(1)阪神北地区社会教育委員協議会第4回理事会について 日時：平成31年3月7日(火) 場所：伊丹市役所 内容：平成30年度事業報告案、会計報告案について 次年度以降の当番市について 来年度の全国社会教育研究大会兵庫大会について</p>
議長	<p>ありがとうございました。お知らせしている通り、来年度は兵庫県にて、全国大会が開催されます。近畿大会を兼ねた大会になりますので、今年度兵庫県が担当の近畿大会は、全国大会にもって替えることとなります。大掛かりなイベントになりますが、みなさんご協力をよろしくをお願いします。</p> <p>では、今の報告に対してご質問等ありますか。なければ3の(2)各協議会等の会議報告です。この間委員の皆さんの方でご出席されました会議がありましたら、ご報告をお願いいたします。(3)についても無ければ、4へ進めさせていただきます。</p> <p>4(1)平成30年度年間テーマのまとめについて、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	(説 明)
議長	<p>中間提言ですが、社会教育委員は2年間という期間で、委嘱されておりますので、提言についても2年間でまとめるということになります。本年度は1年目</p>

ということで、現在の審議内容についての途中経過を報告したいと思います。中間提言については、3月中に事務局と調整し、4月に教育委員会へ報告する予定です。次年度はこの中間提言をベースとして、審議を続けていただくとお考え下さい。それでは、お手元の資料をご確認ください。本年度委員のみなさまからいただいた発言についての意見をまとめた資料になります。この意見について、本日、補足をお願いします。また、補足以外についても、自由にご意見いただけたらと思っています。

資料の扉の部分については、議長、事務局にて調整させていただきました。少し読み上げさせていただきます。住宅都市として発展してきた本市においても人口が減少に転じ、高齢化が進行している。一方で、都市としての利便性と豊かな自然環境が共存する住環境を維持、発展させることで、誰もが住み続けたいまちづくりをすすめたい。この部分が、一応共通認識とさせていただければという点です。定住人口の確保ということと、交流人口の増が本市の1つ目指すところだと思っています。

2つ目です。しかしながらこれまで私達が経験したことのない人口減少社会に対応するためには、従来とは異なる発想による新たな地域づくりが求められる。また、「人生100年時代」が構想される中、シニア世代の新たな生き方を展望した生涯学習社会の構築が求められる。おそらくこの部分も共通認識ができるころだと思っています。単にシニア世代というふうには高齢者をくくるのではなく、セカンドキャリアですね、60歳もしくは65歳からそれまでの経験を活かした、新たな現役として活躍していただける世代を見越した生涯学習のあり方、従来の高齢者教育とは違う生涯学習社会の構築というのが大きな課題になっているということです。川西市の場合は特に、高学歴層の住民が多いといえると思います。そういった方が65歳で活躍を終えられるというのは、もったいないですね。そういう方々の力をいかに市の目標と合わせ、学習を作っていくかっていうところが生涯学習社会の新たな構築の方向性として、従来の高齢者大学とは違う、軸が求められると思います。

3つ目です。国においても「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」の諮問があり、12月に答申が出されました。社会教育施設の主に公民館について、役割も含め、人口減少社会において関係者の連携と住民の主体的な参画のもと、新しい地域づくりを進めるための学習・活動の在り方を中心に、今後の社会教育の振興方策について検討することが求められるということです。国においても従来のコミュニティづくり、古い地域共同体をベースにしたコミュニティではなく、新しい物をつくる機能的な地域づくり、高齢人口を増やし、地域を活性化していくような公民館もしくは地域活動のあり方というものが、議論されています。

最後です。本市社会教育委員の会においても、平成29年度から社会教育の再生～気楽にいける公民館～を議題に、公民館を核とした社会教育の推進のための具体的な方策を基本としながら、今後の社会において公民館に求められる役割について検討することとしたと確認しております。つまり、本市の公民館特徴的な公民館体制を、5、60年に渡って作ってこられています。その成果を大事にしなが、社会が大きく変わっているなかで、いかに新しいものを作って

	<p>いくつかという構想についてお話していきたいと思います。社会教育委員の会は提言というかたちでの報告になりますので、ある程度は自由な発想といいますが、実現できるかどうかという発想にとらわれず、公民館を中心にこういうことができたらいというお話を出していただければと思います。それでは2ページ以降ですね。補足も含めてご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
F 委員	<p>まずは2ページ目ですね。私は、一息つけて、ちょっとした会話ができる、地域の方がほっとするような場所が必要だと思うと発言させていただきましたが、その具体的なイメージについて、事務局よりご質問いただいています。私は川西市の南部地区の久代という所に在住していますが、久代地区では福祉部の方が、久代会館という地域の会館で、久代カフェというものを週1回午後から開かれているようです。地域の高齢者の方や、近くにある幼稚園の送り迎えの時、保護者の方もお子さんも、どうぞいらっしやいということで、コーヒーやお茶を飲める空間を作っておられます。そのイメージで、中学校区ごとに置かれている公民館にも、可能であればちょっと立ち寄って、気軽に行ける場所があったらいいと思い、発言させていただきました。以上です。</p>
議長	<p>交流の場ということですね。</p>
F 委員	<p>久代カフェは誰でも入れるような、いい雰囲気のオープンなイメージがあります。私自身は、利用したことが無いのですが、外から見ても、いつでも来ていいという雰囲気を感じています。コミュニティの方からおいでと声をかけていただくこともありますし、とてもいいかたちで進められていると思います。</p>
議長	<p>どのような団体が運営されているのですか</p>
F 委員	<p>久代地区には福祉部というものがあります。年配の女性達ですが、公民館で料理教室を開かれたりされている方々です。自分の得意分野を活かして、そういう場を作られているという印象を受けています。</p>
議長	<p>他の委員のみなさんは、ご意見いかがでしょうか。公民館を居場所として、こういった仕掛けをされているか、もしくはできたらいいなというものがあれば、ご紹介ください。</p>
H 委員	<p>緑台のコミュニティは今年、50周年を迎えました。しかし、緑台地区にあった最後の喫茶店が無くなるなど、寂しいこともありました。そこで、その場所をコミュニティが借り、事業をしたいという意見がでるなどの動きが出ています。</p> <p>また、もうひとつ、福祉センターの建物を市が借り、フロアの一部を使って子どもの居場所づくりに関する事業を行う団体を立ち上げようとしているようです。ただ、PTAの仕事が非常に多い状況がありますので、直接PTAの</p>

	<p>方々が何かされるというのではなく、意見だけお伝えするという話になっていると聞いています。費用については、まちづくりの所管課に申請しているようです。また、新市長は公民館などの施設で、子ども食堂を作りたいという意見も出されているようです。緑台公民館は近くにありますが、同じような事業をする時など、どのように連携していくかということは、すごく難しい問題だと思います。</p> <p>前回の会議録にも記載されていましたが、学校応援団というような形で地域の方々にお世話になっている事業についてですが、例えば緑台小学校はコマまわしをされている方にお世話になっていたのですが、みなさん高齢になられ、いまは少し停滞している状況です。つまり、65歳前後の世代が人材不足という状況かもしれません。</p>
議長	<p>ありがとうございます。いま子ども食堂の話が出てきましたが、他の委員の方、ご意見いかがでしょうか。</p>
C委員	<p>子ども食堂は市全体として、どこの地域も取り組まれている気がします。北陵地域の子ども食堂は、全てをボランティアということで運営することは難しいので、有償というやり方で立ち上げていくのは、どうかという話が進んでおり、公民館を利用してできないか相談しているところです。</p> <p>また、北陵地区でも自治会館にて毎週月曜日に同じようなカフェをされています。そこはご自由にどなたでも来てくださいというものなので、高齢者の方々が集まっておられます。</p> <p>他にも市に申請して補助金をいただき、まちカフェを実施しています。このまちカフェを立ち上げたのは、コミュニティの中にあるまちづくり委員会という組織です。いまちょうど、まちカフェをするとすると、コミュニティの執行部がどうしても参加しないといけないことから、その負担が大きくなりすぎているという話が出ています。そこで、私達はまちカフェを独立した1つの事業とすることで解決の方法を探っています。またこの度、活動場所の深山池公園の中に活動するための、建物を建てさせていただいて、公民館ではない場で活動を広げています。</p>
D委員	<p>やはり、どこの地域も同じだと思いますが、ふれあいサロンやカフェするにしても、人材不足が課題となっています。ただ、川西市内でも高齢者の人数は増えています。ただ、川西市は元気な高齢者の方も多いと思います。そういったことで、活動をするにしても人材を確保することが大事だと思います。</p> <p>子ども食堂のお話も出ていますが、もともと子ども食堂は貧困の方の子ども達に来てもらおうというのが、本来の目的だったように思います。ただ、いまは子どもと高齢者の居場所づくりを目的として実施されているところも多くあるように思います。</p>
議長	<p>どこの組織でも、組織をまわしてくださる方、役を引き受けてくださる方が減ってきているということですね。</p>

審 議 経 過

NO.5

D委員	<p>そういう方がとにかく少ない状況です。</p>
C委員	<p>結局不足になってくるのはスタッフです。</p>
A委員	<p>スタッフの不足というのは実感しています。私も人が足らんから来てくれと言われ、けやき坂のコミュニティが行っている寺子屋事業のお手伝いに、けやき坂公民館へ一週間ほど行ってきました。また北陵地区も人材が足りなくなったので、夏の子ども理科教室のスタッフで来てくれないかと頼まれ、来年度はお手伝いに行く予定です。確かに今までやってこられた方々が実施できなくなってきているという状況が地域のあちこちに見られている感じがします。</p>
議長	<p>若干世代の発想の違いや、世代間ギャップがあるのでしょうか。</p>
C委員	<p>ものによります。北陵地域はマンションが2つあるので、比較的若い方も多くおられます。まちカフェもそうですが、その若い世代の方々は、自分達が楽しみながらできればいいという考えから、いろいろなことをやってくれています。それに世代が上の我々が引っ張られているという状況だと思います。ただ、全てをお願いできるわけではないので、分野によって偏りはあると思います。</p>
議長	<p>シニアの方についてのお話が出ていますので、少し資料を前後しますが、提言3の高齢者のいきがづくりの提言に話を進めたいと思います。提言3、公民館は高齢者の生きがいにづくりに取り組むという提言がありますが、ご意見いかがでしょうか。</p>
A委員	<p>サークルなどに全く入っておられない高齢者の方が、公民館に何も無いけど行くかといわれると、理由が無いと行かないと思います。公民館でサークルの活動がある、行政センターとしてなにか証明書をもらいに行くなど用事がある必要があると思います。そのあたり、どうしたら公民館に来ていただけるのだろうかと考えます。ただ、それは中学生や高校生の、行き場の無い子ども達がなんとなく公民館に行くのかという点にも通ずるものがあり、先生がいて教えてくれる、一緒に考えてくれるというようなことがあれば、行くかもしれません。何もなければなかなか来ないと思います。つまり、なにもない状況でたまり場とするということは非常に難しいということです。</p>
F委員	<p>資料の提言3について、私が発言した内容に関し高齢者のたまり場についてのイメージとして、ハード面、ソフト面、どちらを想定されていますかと事務局より質問が出ていますが、やはり職員の方は業務があると思うので、対応は難しいと思っています。先程の提言1と同じイメージでお話していますが、私も椅子と机があるだけでは、ほっとできる居場所になることは難しいなとは思っています。イメージとしては、ご近所のなかで公民館で今度こんな事業をするみたいだから行ってみたいかという話から、繋がりきっかけになるような</p>

審 議 経 過

NO.6

	<p>場所という意味でお話しました。そういと、やっぱりカフェのようなものを想定してしまいましたが、孤独を感じている方も中にはおられると思いますので、その寂しさを開放するために、なにかできないかという気持ちから、意見を出しました。</p>
D委員	<p>高齢者のいきがづくりというのは、登録グループの育成というところもあると思います。川西市には高齢者大学があります。高齢者大学で学ばれたあと、自主活動グループを作るということを以前は多くされていましたが、最近では少なくなってきているように思います。そのあたり、最近のグループの結成状況はいかがでしょう。</p>
議長	<p>本市の高齢者大学の実施状況について、詳しく教えてください。</p>
事務局	<p>川西市に市が運営する大学が2つあります。ひとつは生涯学習短期大学レフネックというものです。レフネックは対象者の年齢制限はありません。アステ市民プラザの6階で毎週土曜日講座をしています。もうひとつは高齢者大学りんどう学園です。これは対象者が60歳以上からと限定されています。昨年3月までは中央公民館の所管で実施していましたが、4月からは社会教育課へ移管し、運営しています。講義の場所はレフネックと同じです。</p>
議長	<p>両方とも2年制ですか。</p>
事務局	<p>2年制です。</p>
議長	<p>卒業された後はこういった形で地域活動へ導いておられますか。</p>
事務局	<p>学ばれたことをご自身のためだけの知識に留めておくのではなく、地域に還元していただきたい、地域に戻り、指導できる立場として役割を果たしていただければありがたいという気持ちはあります。ただ、アンケートをとらせていただいても、2年間学んだことを地域に戻って指導者の立場として果たすというところまではなかなかできませんといった回答や、高齢につき自分が学ぶことで精一杯ですという回答が見受けられます。ただ、人数としては決して多くはないですが、中には歴史に関する学科で学ばれたあと、川西市文化財ボランティアガイドの会に参加され、市の文化財のガイドをやっていただいている方や、コミュニティ等に入られ、地域の活動をされている方もいらっしゃいます。</p>
議長	<p>宝塚市には県の阪神シニアカレッジがありますが、どこも高齢者学級は地域活動に導くという傾向があるようです。そうしないと補助金が下りないという事情もあるようです。その部分についても、伸び悩んでいるという印象を受けました。実際に聞く話では、高齢者のみなさんもやりなさいと言われることが重荷になっているようで、以前とは少し気質が変わってきているのかもしれ</p>

審 議 経 過

NO.7

<p>G委員</p>	<p>ないと話を伺い思いました。いま事務局からお話があったように、やはり人材不足というのは、そういったお話も含めて行く人の層が減っているということだと思います。従来のシステムでしたら、県も市も地域活動というところ、ボランティアというところに特化した形で高齢者学級が進んでいたけれど、そこも曲がり角にきているということでしょうか。G委員どう思われますか。</p> <p>2年間学んでそれを地域に戻り、指導者として活躍していただくというのは理想ではあると思いますが、学んだからといって、それをすぐ人に教えていけるのかというと難しいと思います。ただ、公民館講座を受けられた方が今後も継続して学びたいとグループを作り、活動されるというのは見受けられます。ですので、私の想いにはなりますが、講師料を払って登録グループの方に講座をしていただくなど、いいことじゃないかと思います。秋に各公民館で文化祭をするときなど、1年間活動された内容を拝見し、すごいと感心するわけです。そういう方々に公民館講座をしていただくと、グループのPRにもなると思いますし、友達を集めて一緒にやりませんかというようにすれば、みんなで公民館の講座を盛り上げていくという雰囲気になるのではないかと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>一般的に公民館講座を組むと、その中で何人が有志が残り、公民館で活動していく、その中で職員が導き手としての役割を果たすというイメージですが、そのあたり、川西市はどうでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>いまG委員がおっしゃったお話ですが、川西市の地区館で、登録グループのPRと新規募集を兼ねて3組か4組のグループが講座をすると確認しています。</p> <p>この間ヨガの講座をしましたが、楽しかったのもっとやりたいという有志が何人かおられ、講座に参加されたみなさんに声をかけて、グループ活動を始められました。特に事務局からの働きかけは行っていません。ただ、登録グループの要件については、以前は10人ないと登録できなかったものを5人にするなど、緩和はしています。</p> <p>私の個人的意見ですが、60代の方がどうも受け身になっているような気がします。川西公民館にはグループ協議会というのがありますが、100ぐらいあるグループの中から役員を毎年順番でやっていきますと言うと、役員にあたるのでグループを解散しますとおっしゃるグループもあります。自分が役に当たることをみなさんものすごく負担に思われる傾向にあるようです。今回ヨガをされる方々は少し若めの方々でしたが、70代ぐらいの方々为主になってやろうかと言ってくださる方が多いと感じています。ですから、高齢者大学からサークルができていないかというご質問の回答としては、昔はできていました。いま、グループに参加はされます。ただ、新しいグループは作らない、という状況です。公民館活動を見ていると、10人のメンバーがいたグループが5人になり、3人になり、もう人がいないからやめると、消えかけている状況です。先程おっしゃっていたように65歳までみなさん働いておられるので、65歳くらいまでの若い元気なお年寄りが来られない。みんな70、80歳になっ</p>

	<p>て、しんどいからやめますという状況です。世代間ギャップではないですが、その世代に人がいないがためにこういうことが起こっているのかもしれないと思っていました。</p>
D委員	<p>その通りですね。私も8名のグループで活動をさせていただいていますが、メンバーの中には、会計事務だけはするという方もいます。役をやって欲しいと言うと、やめると言われてしまいます。途中から入って来られる方はいますが、もう歳だからとおっしゃられて、すぐ辞めてしまわれます。そういう問題もあり、なかなか登録グループどうしたらいいのかと心配しています。</p>
議長	<p>若い方の意見としてE委員いかがですか。</p>
E委員	<p>そうですね。私は先程おっしゃられた60代の積極的に役員にならない親世代の子どもなので、私達の世代にもそういう方々は多いと思いますが、きっかけを作ってあげることが大事だと思います。</p> <p>個人情報の問題があるのでどの程度まで見込めるか分かりませんが、先程出たたまり場の話から、そのような場で情報発信ができるシステムがあれば、こちらからの働きかけができるのでいいと思います。</p> <p>私は子どもの頃からずっと、グリーンハイツで過ごしていますが、私達が学生をしていた時と比べると、いまの子達はまじめだなと感じています。ただ一方で塾に行っている子ども達と話をすると、塾に行っても授業は受けず、自習室で勉強しているという子もいるようで、もったいないなと思います。私もそうでしたが、朝から勉強しないといけないと思う子ども達は、9時に開く自習室に行くため、7時半ぐらいから家を出て、電車に乗って、通っていると思います。もちろん電車代もかかりますし、都会に出れば誘惑も多いと思います。ですから、春休みや夏休みの間にでも、自転車で公民館に行って自習ができるような場所があるということを発信できるようなものがあれば、いいと思います。発信というのは、大きなことではなく、おわりの会のプリントに1枚入れてもらうだけでも違うと思います。仮に設備を整えてあげないといけなくなれば、机にパーテーションを立ててあげる位で、しっかり勉強できるのではないかと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございました。ちょうどお話をいただきました、子ども達に対する支援のお話ですが、資料では提言2の部分です。子どもの居場所づくりについて、公民館がどのように関わっていけるかというところです。学校地域協働事業、コミュニティスクールのことなども含め、本市においても重要な政策課題だと思います。それでは、提言2の子どもというところに焦点をあてて、ご意見をいただければと思います。</p>
F委員	<p>インターネットや人工知能というものが進む世の中ですが、人対人、人と人との交流でしか作り上げていけないものはあると思います。生きづらさを感じている人や、中間提言2の(3)不登校についても、学校に行きにくくなってい</p>

審 議 経 過

NO. 9

	<p>る子ども達がいるなかで、常に安心して通えるような場所というものが必要だ と思います。社会教育委員の会で川西市ではセオリアという施設があると伺 い、必要としているお子さんをお持ちの友人に情報提供したところ、実際に通 うことになりました。セオリアに通うようになって、よい友達と巡り会えて、 良かったと伺っていますが、午前中には帰ってこないといけないというような 制限があるようなお話を伺いました。</p> <p>また、勉強についても、学年が上がると勉強も難しくなるということから、 保護者として、授業の遅れを心配しておられました。その辺をもうちょっと手 厚くできる場所があったら嬉しいなと思っています。セオリアのことについ て、ご存知な方はいらっしゃいますか。</p>
I 委員	<p>セオリアに通うのは9時半ぐらいから2時半ぐらいまでだと思います。私も 何回か覗いていますが、教えていただける先生がいる中で、基本的には自分の やりたいこと、勉強をやります。また水曜日は総合体育館で体育をします。さ らに月に1回は郊外学習に行っています。</p>
議長	<p>交通費は市が支弁して、出席とみるということですか。</p>
H 委員	<p>交通費は自費です。</p>
I 委員	<p>ただ、出席扱いはしています。</p>
D 委員	<p>昼までは授業を行い、昼からは自由時間です。</p>
議長	<p>先生方が常駐されているのですね。</p>
I 委員	<p>おられます。</p>
D 委員	<p>昼までに帰らないといけないということはないと思います。</p>
I 委員	<p>確かに中学生は多いですが、一緒に勉強しないといけないということではな く、自分でやりたかったら自分でやったらいいというものです。</p>
D 委員	<p>フリースペースでやっておられます。</p>
F 委員	<p>ただ、その学年で習得しなければならぬという範囲がありますよね。それ を全て勉強できるということまでは難しいと思います。保護者はそのあた り、すごく不安を感じていらっしゃるように思います。何かいい方法は ないかなと探すなかで、川西市にはフリースクールというところがあると聞か れたようで、そういうのも考えないといけない状況もあると伺ったことから、 どうにかできないかという気持ちが私の中です。</p>

審 議 経 過

NO. 10

議長	<p>先生方も悩まれています、本市以外も含めて、一定数はそういう悩みを抱えている子ども達がいる状況があると思います。ただ昔と比べて、ハードルは結構下がってきているとも思います。</p>
A委員	<p>もともと、セオリアはそこで慣れたら学校に行きましょうという考えの施設ではあります。</p>
F委員	<p>行きたくないという気持ちを持っているのであれば、戻してしまうというのは、あまりよくないと思います。わたしも最初は学校に戻すための施設だと認識していましたし、保護者の方も最初の頃は、学校に戻るまでの場所というような感覚でおられたようですが、やはり子どもの気持ちが1番大事であるということや、セオリア自体の考え方も無理に戻る必要はないという風なところから、ちょっとニュアンスが変わってきたところがあるのかもしれない。</p>
A委員	<p>多分、何日かして戻りなさいという指導はしないと思います。ここに来たら学校に来たのと同じ意味になるということをお伝え、子ども自身が学校に戻ってがんばれそうだなと思ったら学校へ通うということです。私は数年前に教育委員会のお手伝いをする中で、セオリアを側面から見ていました。中学生ですが、やはり、ずっとセオリアに通っていた生徒の方が多数でした。結局セオリアが1番居心地がよく、また指導者との人間的な関係もできているということだと思います。当時の指導者は、それはそれでもいいのではないかという考え方もあったのではないかと感じました。まずは家から出て、学校に近いものに行き、その雰囲気にならなさい、その中で学校に行きたいと思えば、行けばいいということだと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございます。提言2の(3)のところですね。不登校の子ども達の居場所づくりという提言ですが、それに公民館がなり得るのか、もしくはどういった導きや関係をもつことができるのかということだと思います。</p>
A委員	<p>例えば公民館は、今セオリアにいる指導者がいなくても建物があり、行けば自分1人で勉強ができる環境があります。公民館職員の方に関わっていただくと、職員増ということも考えないといけません、子ども達が行ってもいい建物があるということが認知されることが大切だと思います。学校と同じように出席したことになることについては、制度改革か、法改正かいるのかもしれませんが、子ども達にとっての利点があり、セオリアも敷居が高い、学校も行きづらい、ただ、公民館だったら行けるというような存在に公民館がなれば、制度としても整っていくと思います。</p>
議長	<p>学校以外で義務教育に準じる機会を提供する通知が出されていますが、どの地域でも模索状態となっているように思います。もしよろしければ、今の川西市の状況を、教えていただきたいです。多様な学習の場の設定というところですが、事務局いかがでしょうか。</p>

審 議 経 過

NO. 11

事務局	<p>多様な学習の場の設定というところで、学校に行きにくい子ども達の登校をどう扱うかというところは、議論が交わされている方向にあると思います。セオリアも方向的には学校復帰を目指しているところではありますが、子ども達のペースに合わせて運営をしています。いまは50人ほどいる子どものうち、いつも来ているのは20人程度と把握しています。他に、フリースクールに通っている子ども達もいます。それを出席にするかというところは、フリースクールが学校復帰を目指したもので、学校との連携もあるということの確認が取れば出席という扱いにすることも場合によってはあり得ますが、ただこれが当初言われたように広がっているかという、なかなか難しい問題があると思います。学校に通うことに悩む子ども達が公民館で1日を過ごすことができれば、良いのかもしれませんが、まだそれを登校にできるかどうかについてはまだまだ難しい問題があると感じています。</p>
議長	<p>川西市は南北に長い地形ですから、分教室とはいませんが、そのようなところが公民館などの施設でできればいいと思います。川西市は交通費が出てないということでしたが、明石市など他市では交通費の支給があるところもあります。明石市では、中崎小学校という市役所の横にある小学校がそういう施設です。明石市の東の端ですから、バス代と電車賃は市の教育委員会の負担で通えるようです。ただ、学校以外の学習の場を充実させすぎること、学校に登校しない子が増えるのは、あまりよくないという側面もあると思います。そのあたり、I委員どう思われますか。</p>
I委員	<p>いつでも来ていいという発信や、公民館の図書室で勉強してもいいという発信をしていただくことは、当然ありがたいと思っています。ただ、子どもがセオリアに通っているというのは、やはり安心できる居場所があるからだと思います。セオリアは別に自分1人で勉強してもいい、親しくなった子ができれば、その子と勉強してもいいという気楽さがあります。学校でクラスに入って過ごすことは、子どもなりにすごく神経を使い生活している部分もあると思うので、セオリアという居場所はすごく大事だと思います。ただ、公民館に1人で行くかという話ですが、そこが居場所になるのか、安心感があるのかというと、先生もいないというのであれば、家で1人勉強していたほうがいいのかとも思います。そういうことから、不登校の子が行ける場所になるかというとなかなか難しい部分があると思います。ただ、普段は公民館に行きにくいと思いますが、夏休みなどに機会があれば、中学生も行くと思うので、そういう機会を作っていただけたらありがたいと思います。</p>
議長	<p>ひとつのアイディアですが、公民館の強みは夜に空いているというところ、昼夜逆転の生活をしている子ども達については、夕方からの学びの場を整えるというのもありだと思います。昼夜逆転の生活を直すために、朝早くから来なさいという指導も含め、朝から来るように指導しているところが多いですが、そのことがまずハードルになるということから、夕方からの学びの場を提供できるということが、ひとつ、公民館の強みであると思いました。</p>

審 議 経 過

NO. 12

B委員	<p>先程、F委員のお話で、保護者の方が勉強の進捗を心配されているという話がありました。ただ、それは保護者の気持ちであって、子どもの気持ちではないと思います。学校に行けない子をどうしようかというのは、まず、子どもが自分は必要のない存在だと思ってしまうような居場所を感じる事ができることが大切だと思います。そのために、まずはセオリアに通えることが大事だと思います。保護者の立場になると、必要な時期にしっかり学んで、次に繋がりたいという想いがあるかと思いますが、うちの子もH委員にお世話になりましたが、学校は大好きで、ほとんど休むこともなく通っていましたが、勉強は全然しませんでした。学びたいことは、学びたいときに学べるとは思いますし、保護者の気持ちよりも子どもがどうあるかが大事だと思います。</p> <p>私も勉強はしませんでした。例えば時代ものの舞台や映画で気になるものがあれば、その時代のことは調べたり覚えたり、すごく学んで吸収しました。おそらく学生の時も習っていたと思いますが、全然入っていなかったということです。いま子ども達がセオリア行くとすると、少し保護者の方が安心できるように子ども達が公民館に行ってくるわと言うと保護者が安心できるような空間に公民館もなればいいと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございます。資料3ページに、学校との連携という部分について触れているところがあります。地域学校協働本部事業、学校家庭地域の連携、PTA等、学校と公民館、社会教育がどう関わっていけるかという点で、少しご意見をいただければと思います。</p>
A委員	<p>僕が学校で勤めているとき、担任を持っている時はなかなか地域コミュニティまで意識がいていませんでした。管理職になって、コミュニティの方にお世話になっているということ意識し、コミュニティとの関係が見えてきました。コミュニティの方々は地域とのつながり、絆を非常に大事にされていますし、そうして歴史を積み重ねておられます。ところがそれはコミュニティと学校で完結してしまっていて、そこに公民館は入ってきていません。私は川西市の中心部の3つの学校を回りましたが、そのうちの2つの学校はコミュニティ組織が非常に大きく、全自治会を吸収し、コミュニティとして長い間活動されているという地域でした。子ども達を含めた文化的な活動も、大人の文化的な活動も全部コミュニティが掌握して、コミュニティの中でされているので、学校から見ると、このコミュニティはすごいなと思っていましたが、今年になってそれを公民館に当てはめて考えると、公民館はその中に入っていなかったということに気づきました。公民館とコミュニティの連携として、公民館から情報を発信して貸館を行うことや、公民館と一緒に何か共同事業をしませんかと発信する手段を持ったら、コミュニティに働きかけて何か形のあるものができ、連携できるのではないかと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございます。H委員いかがでしょうか。</p>
H委員	<p>今日、2年生が公民館の見学に行っています。いま緑台地区では、公民館で</p>

議長

はないところでコミュニティが子どもの居場所づくりを始められていますが、先程おっしゃられたように公民館の図書室などを自習室として活用させていただければ、ありがたいなと思います。また、地域の方から聞いたところによると、緑台小学校の生徒はカードゲームやる場として、公民館でお世話になっているようです。昨年の夏は特に暑かったですが、子ども達にとって涼しくて、みんなで集まれる場所というのは公民館しかないので、遊ばせてもらっていたと聞きました。

また、公民館はいろいろな講座をやっておられるので、これから必修となるプログラミングについて、コンピューターに詳しい地域の方に講師として来ていただければありがたいなと思います。ほかに、子ども教室での連携があります。地域によってはコミュニティの建物でされているところもあるようですが、緑台小学校の場合は、公民館でお茶、お華の活動をしておられる方に学校へ来ていただき、指導していただいています。ただ、長期休暇の期間については公民館のスペースをお借りして、活動をするのもできるのではないかと思います。

ただ、地域・学校・公民館の連携を考えたときに、どこが中心になってコーディネートしていくかという点については、まだ整えられていないと思うので、そういう部分の意識を公民館の方達と共に作っていければと思います。

ありがとうございます。いま最後にコーディネーターについてお話いただきました。通常は公民館主事が学校も含めた連絡調整をしていくという機能を果たすことになっていますが、なかなか組織体制として難しいところがあるようです。

時間が進んできましたので、最終的なまとめの方向について話を進めさせていただきます。7ページを確認下さい。今ご議論いただいたところを全て含めた形になりますので、この後は提言関係なしにフリーディスカッションいただくと思いますが、先に議論の土台部分の説明をいたします。1つ目、利用者の増に向けた取り組みについてです。何度か申し上げていますが、地区内だけではなく、地区内外の交流人口を増やすために、こういった活動ができるかです。2つ目、本日はあまりお話が出ませんでした。昨日は3月11日だったということもあり、テレビ等でいろいろと情報が流れていますが、防災に向けて公民館の機能をどうしていくかという点です。昨日は防災拠点の鍵を誰が開けるのかという話を放送していました。3つ目、運営体制です。公民館ごとに性格、特性が違います。中央館と各地区館もしくは併設館と、いろいろとありますが、交流人口増やす、従来とは違う新しい発想に基づくあり方を進める上でどのような運営体制が望まれるのかというところです。4つ目、先程お話が出ましたスタッフの体制です。学校との共同をどう進めていくのか、つまりボランティアの斡旋です。専門的なスタッフをどう育成していくかということです。いま申し上げました4つの柱を検討課題ということで、柱建てしております。これに肉付け、もしくは5番目の柱も含めて残りの時間、お話しいただければと思います。

審 議 経 過

NO. 14

I 委員	<p>子ども達の安全を確保するために、震度5以上は臨時休校とするとなっています。また、登下校中など、授業以外の時間に強い地震に襲われた時はすぐ近くの安全な場所へということになっています。当然、登下校中に公民館があれば、そこへ避難するということです。そういう意味でいうと、公民館も含め、子ども達を地域で見守っていただければありがたいと思います。</p>
議長	<p>青年会議所の取組などはいかがでしょう。</p>
E 委員	<p>先程防災のことでお話がありましたが、熊本地震をきっかけとして川西市の青年会議所は社会福祉協議会と防災協定を結びました。青年会議所の中での担当者を決め、窓口をひとつにして、ネットワークを広げていっています。そういった取組について、いろいろなところの団体の要として公民館が使えるようになればいいと思います。また、情報発信、情報共有ができるようになれば、いざ地震が来たというときに、どう行動すればいいかの体制を作っておくことができると思います。自然災害はいつ起きるか分からないことですから、更なる備えをしないといけないということはいつも思います。私達は、熊本地震以降も水害被害等があれば、スコップを持って、土砂をかき出しに行ったりしているのですが、日々の協力のなかで、もし川西市がなにか災害に襲われた時は、私達にも声をかけてくださいという助け合いの精神を形にしていくことができる体制があればいいと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございます。ほか、交流人口のことについてはどうでしょうか。</p>
E 委員	<p>そうですね。私達は川西市のまちづくりということで、市民に町を愛していただくということと、それと外からも川西市に来て欲しい、住んでほしいということとを毎年の課題として挙げ、継続的に事業を行っています。今度3月21日は福井県の鯖江市からJK課という女子高生がするまちづくりを実際にされているところから担当者の方と、女子高生の方をお招きして、商工会館の4階で講演会を行います。誰でも参加できる講演会ですので、地域の中学生や高校生にも呼びかけをしてチラシを配っています。このように、他の町から来てもらえるようにするにはどうしたらいいのかということを考え、事業を行っています。私達は時間があるわけでは無いのですが、自分達でお金を出して予算を組んで人を呼んでという形でやっているのですが、動きとしてはわりと大きなものになる傾向があります。ただ、スケールが大きくても小さくても、ノウハウや役割というものは同じものだと思っています。世代が違となかなか連絡が取りづらい方々もいらっしゃいますので、地域の方々と連携して何かをするにはこういうシステムが必要だとお話ができるような機会があれば、いいなと思います。また、事業の動員について悩むときもありますので、そういったことにご意見をいただければありがたいなと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございました。他の委員の方、いかがでしょう。</p>

審 議 経 過

NO. 15

A委員	<p>地域防災の拠点の機能強化についての課題は多いと思います。避難拠点となるべき建物、つまり学校に勤めていた時の話ですが、真夜中に避難所を開設するとなった場合は、管理職が1番にまずは駆けつけておかなければならない、市の方が来られたらタッチするなど、そういうシステムの順番が決まっています。学校は最初に鍵開けをする責任の人間について、非常に分かりやすいですよ。何か災害があって人が来られたとき、学校関係者であれば学校の構造も分かっていますから、この部屋に行ってくださいという指示がすぐにできます。その状況をそのまま公民館に移し変えた時に、対応できるのかということです。また、備蓄の問題や受け入れ人数の問題などいろいろ考えますが、例えばグリーンハイツであれば公民館と自治会館と学校との公的な建物を結んだ防災の拠点として公民館を活用するという方法があると思いました。</p>
C委員	<p>防災について北陵地域は新しい地域ですし、土台もしっかりしているし水害なんて絶対来ないとかそういう考えが地域の中にあっただけで、去年の台風の時に一部避難勧告が出た際、パニックになった人もいたと聞きました。家の裏が山になっている方々は土砂災害の危険性があるということで避難勧告が出ましたが、危険区域に入っていることをご存知ない方々がおられ、慌てたということです。その時は公民館、小学校が避難所として開設されました。台風の後、北陵地区では、公民館に集まろうという話になりました。さらに、地域によって災害の内容が変わってくるので、その地域にあった対応を行っていくべきだと思いました。</p> <p>また、昨年度青森県で開かれた全国大会に出席した際に参加した分科会は防災の取組を取り上げられていましたが、そこでは、公民館が中学校を巻き込んで実践をしておられ、学生がボランティアとして関わっていくというものでした。その中学校は実際にいろいろ経験したことをもとにしているというお話も伺いながら、やはりそういう災害が起こったときの災害の拠点は公民館じゃないかと思いました。また、情報発信についてですが、イベントを実施しても子ども達が来ないというのはどうしてなのかということを考えていました。北陵地区は地域で音楽祭などを公園でやりますというと、多くの方が集まります。その差というのは、やはり情報発信の方法ということもあるのではないかと思います。最後に私の子ども達は、家ではあんまり勉強できないからと、外で勉強するのが好きだったので、公民館の図書室も穴場と言って夏の暑い時期はそこで勉強していました。そういう使い方も含めて、居場所というのは考えられると思います。</p>
議長	<p>ありがとうございました。他の方、いかがでしょうか。</p>
F委員	<p>この間小学校で地域の防災訓練というものがあり、参加させていただきました。物資はここにある、鍵はこの人が持っているということをPTAでも確認させていただく機会となりました。先程のお話にも出ていましたが、鍵の管理について、個人のお家の鍵入れに入っているということで、いざという災害の時に鍵を持っておられる方が、すぐに来ることができない状況になっていたら</p>

審 議 経 過

NO. 16

<p>議長</p>	<p>どうするのかという話になりました。いざという時は、何が起こるか分からな りません。そのあたり、鍵の保管も含めて対応を整える必要があると思いま した。一般市民として、何かが起こったときにどうしたらいいのかという と、やはり、準備が大切だと思います。気持ちをどう持つかを知るため にも、市民のみなさんに防災訓練に参加をしていただいた方がいいですが 、参加してもらうため、情報の発信の仕方が大切だと思います。回覧板 で回すだけでは、興味のある方しか来られないので、いつも同じメンバ ーになってしまいます。いつもは感心ない方も参加をしていただける方法 はないか、話が出ました。災害はいつ起こるか分かりません。本当に備 えが大事だと思います。以上です</p> <p>今年度は阪神北地区社会教育委員協議会の研修会において、学校を見学 させていただきました。そこは小学校を中心として、校内清掃、防災訓練 を実施されていました。子どもが来れば親も来る、普段来ない人も来る というような関係性の中で地域が主催で学校を使い、先生方にも協力し てもらって実施するというような事業でした。すべてを公民館で開催する 必要はなく、学校で実施してもいいのですが、コーディネーションや企 画については、当然公民館は関わってくると思います。場所だけの話で はなく、地域の防災のセンターとしての役割として、川西市の公民館は 行政センターも併設していますので、そこはひとつ強みとして、公民館 が機能を持って、連携して地域防災の拠点となっていくという役割が いえるのではないかと思います。ほかに、ご意見いかがでしょう。</p>
<p>G委員</p>	<p>気楽にいける公民館ということですが、前も南公民館長が言われていま したが、公民館に目的なしに来る人はまずいない、それは現実だと思いま す。子ども達も夏場の暑い中で涼しく勉強できるという理由があり、目 的を持って公民館に来ています。</p> <p>また、災害時の鍵の件ですが公民館の館長をはじめ、公民館職員は公 民館の鍵とセコムのキーを持っています。他にも公民館の近所の職員も 災害時に何かあれば来て開けていただけるように、役割が決められてい ます。また市の危機管理課の担当では、鍵とセコムを開けるためのキ ーが置いてあります。</p> <p>去年は台風も地震も大雨もあるという年だったので、公民館長は大変 だったと思います。地震はいつ来るか分かりませんが、台風、大雨につ いては気象観測の精度が高くなり、ある程度の予想ができますので、 終業前に市の方から指示が出ますし、その辺はそんなに心配すること はないと思います。昨年もそうでしたが、まず学校よりも先に公民館 を避難場所として開けます。公民館は第一避難場所として、備蓄もあ りますし、地域によって違いますが、地域の防災の道具も、防災倉庫 にあります。ですから私は、防災面では公民館は一時的な機能は果たし ていると思っています。</p>
<p>議長</p>	<p>多くの意見をいただき、ありがとうございました。それでは議題4につ いては、以上で終了とさせていただきます。本日みなさま方からいただ いた意見について、肉付けする形で作り直します。ただ、もう一度お 集まりいただくこと</p>

審 議 経 過

NO. 17

	<p>は難しいと思いますので、最終的な文言修正等については、正副議長のほうにご一任いただいて、よろしいでしょうか。</p>
議長	<p>(各委員承認)</p>
	<p>それでは、ご一任いただいたということで、正副議長と事務局の方で整えます。まとめた中間提言につきましては、来年度のベースとさせていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>次に、5のその他です。事務局から説明をお願いします。</p>
	<p>それでは、社会教育法第13条に基づき、次年度の社会教育団体に対する補助金についてご説明いたします。予算案については、現在、開会中の市議会において、今後、審議されますが、PTA連合会などの4団体への補助金につきましては、本年度と同額を予定しております。個々の補助金の額を申しあげますと、まず、川西市PTA連合会に28万3千円、川西市立幼稚園PTA連絡協議会に4万5千円、川西ユネスコ協会に9万円、川西市婦人会に9万円であります。また、学校支援地域本部事業補助金については、78万円であり、このうち、市からの補助金は26万円で、国・県からの補助金が52万円です。</p>
議長	<p>次回の第6回社会教育委員の会ですが、平成31年4月24日(水)午前10時から川西公民館にて開催を予定しております。来年度の詳しいスケジュールについては、4月の社会教育委員の会にてご報告します。以上です。</p>
	<p>以上をもちまして、本日の議事は全て終了いたしました。それでは、これをもちまして、平成30年度第6回川西市社会教育委員の会を閉会いたします。ありがとうございました。</p>